

澤田美喜 さへだ みき 社會事業家。明治二十四年九月十九日東京生れ、昭和五十五年五月十一日没（一九〇一—八〇）。二妻木家岩崎久彌の長女。大正十一年外交官澤田兼三と結婚。大正期に來日したイギリス人社會福祉家エリザベス・サンダースの基金を以て、昭和二十二年神奈川県大磯に混血孤兒の養育施設エリザベス・サンダース・ホームを創設、二千人に及ぶ孤兒を育てた。

譯書に、ヨランダ・ド・オルムツソン作『子供の國から』（澤田美喜子名、昭和十五年八月二十日伸展社）。著書に『混血児の母—エリザベス・サンダース・ホーム』（昭和二十八年二月二十五日毎日新聞社）、『黒い肌と白い心—サンダース・ホームへの道』（昭和二十八年十月二十五日日本経済新聞社）、『黒い十字架のツガサ』（昭和四十二年五月二十五日毎日新聞社）、『母と子の絆—エリザベス・サンダース・ホームの二十年』（昭和五十五年五月二十一日PTP研究所）等。

